

(社) 日本原子力学会
第 94 回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 28 年 11 月 15 日 (火) 13:30~17:00
場 所 日本原子力研究開発機構 東京事務所 第 2 会議室
出席者 大場委員長、三村副委員長、宇奈手幹事、伊藤委員、中野委員、中村委員、原田委員、福家委員、宮越委員、
田中特別委員、布目特別委員 (13 名：委員名簿順)
北村氏 (オブザーバー)

配布資料

資料94-1：第93回倫理委員会議事要旨(案)
資料94-2：2017年春の年会企画セッション関連資料
資料94-3：2016年度倫理研究会関連資料(追加開催分)
資料94-5：倫理委員会の取り組みに関する協議メモ
資料94-6：倫理規程見直しに関する資料
資料94-8：倫理規程英訳に関する資料
資料94-9：日本工学会 技術倫理協議会 第12回公開シンポジウムに関する資料
資料94-10：入退会関連資料
※資料94-4、94-7は欠番

議事

1. 資料 94-1 により、前回議事要旨(案)を確認した。一部の誤記を訂正することで了承された。
2. 資料 94-5 により倫理委員会の役割と今後の活動に関する協議を行った。委員から以下を含む多くの意見が出され闊達な意見交換が行われたが、これらの意見を踏まえ、今後の活動については別途タスクチームを設けて整理し、継続して委員会で検討していくこととした。
 - ・ 倫理の考え方は、組織運営の側面などを新たに加えて、現在の規程にまとめられた。次は、現場での実装を図るため、事例集で規程の浸透を充実していくべき。
 - ・ 倫理規程の内容は現場毎に異なる状況への対応も考慮された網羅的なものだが、時と共にポイントが変化するもの。このポイントを都度明確にし、発信していくべき。
 - ・ 産官学の中立的な体制において、様々な側面を持つ原子力の有用性や課題を共有し発信できるのが学会。この位置付けから、学会の倫理には利害関係者内外のインターフェイスの役割があっても良いと考える。
 - ・ 科学に携わるものが社会の中での振る舞い方を考える規範が学会での倫理であり、研究者も社会性が必要。
3. 資料 94-2 により 2017 年春の年会企画セッションのテーマについて検討し、以下の議論が行われた。なお、前回の倫理委員会で検討したテーマ案については講演の依頼先との協議の結果、見直すこととなった。
 - ・ 日本学術振興会で“原子力は未来技術たりえるか”というテーマで研究開発委員会が行われ、克服すべき課題のみならず原子力研究者・技術者が備えるべき倫理観と感性なども討論されている。
 - ・ 一般的に、研究会・委員会等では、議論がなされて報告書に纏めるというサイクルにな

るが、そこで終わらず議論が継続されること（計画中）が重要。その観点からも倫理委員会とのコラボレーションは双方にとってメリットがある筈。今回は前委員会の検討の成果を受けた講演会形式とするが、その後の委員会の中で議論を継続していく。

- ・ 次回企画セッション担当により案を作成し、メールベースで準備をすすめていく。
- 4. 資料94-3により2016年度倫理研究会のテーマについて検討した。今回は事例集を扱い参加者がグループに分かれて議論することを計画しているが、対象者と目的が明確となるよう11/Eまでに担当にて更に検討を進めることとした。
- 5. 資料94-8により倫理規程の英訳案が紹介された。各委員のコメントを反映されたもので1週間を目処に各委員にて最終確認を行い11/EのHP掲載を目指す。
- 6. 資料94-9に基づき日本工学会 技術倫理協議会 第12回公開シンポジウムの紹介があった。
- 7. 資料94-6に基づき倫理規程見直しに関する協議を実施した。資料の内容も含め、各委員にて再度倫理規定を俯瞰し、11/Eまでに見直しのアイデアを出すこととなった。
- 8. 再稼動に係る審査、承認の事例集に関する協議については別途タスクチームを設けて方針を決定することとした。
- 9. 資料94-10により宮澤委員の後任として神谷氏の倫理委員立候補があり了承された。次回の理事会にて報告される予定。
- 10. 次回の倫理委員会は、H29年1月24日(火)または25日(水)13:30～(場所未定)とした。

以上